



料理教室 ～晩白柚でカップムース、ちらしずし、化粧水作り～

- ◆日時 2月23日(水)10時
- ◆場所 文化センター調理室
- ◆参加費 500円(当日徴収)
- ◆申込方法 2月15日(火)までに氏名、電話番号をご連絡ください。(定員10人)
- ◆持参物 エプロン、三角巾、マスク、手ふきタオル、保冷バッグ、空きびん
- ◆申込先 地域おこし協力隊 ☎52-5854



地域おこし協力隊 蜂須景子の活動レポート ⑭



▲地域おこし協力隊
インスタグラム

12月26日に、まちづくり酒屋においてイ草のしめ縄教室を開催しました。
氷川町産のイ草やもち米、晩白柚の葉、蓮根を使い、つまみ細工で桃色ちりめんの花を作りました。皆さんイ草のしめ縄を締めるのに悪戦苦闘しながらも、色とりどりのしめ縄ができました。
また、翌日には小学生フッキングを開催し、氷川町産の野菜やドライフルーツを使い、花束のようなサンドイッチとカラフルチョコスティックを作りました。

「人が尊重され、生きがいを感じられるあたたかい町」 人権啓発コーナー

心のきずなを深め、いじめを許さない学校・学級づくりに対する意識を高めるために、小中学生が考えた作品を紹介いたします。
人権尊重の視点を立った町づくりを推進するための啓発に期待できる作品です。

◆標語の部

- 気付き合おう 相手の心と 自分の心
SNS 何か言われたら SOS
電北東小6年 岩岡 佑美さん
本当の貴方 嘘偽りなく 出せていますか
電北中1年 山本 百穂花さん
氷川中2年 宮川 優衣さん

◆ポスターの部

電北東小6年 田中 駿太郎さん

電北中2年 河野 汐里さん

電北中2年 中居 紗英さん

岡 生涯学習課 生涯学習係 ☎52-5860

町民文化

短歌

- 聖歌唄ふ英語の後に日本語で
聞く人もなく静かに唄ふ
西上宮 村内 一誠
- 大寒や立神峡の岸辺より
不知火海へ回廊の立つ
北野津 井田 道寛
- 寒風の中に咲いたりスミレ花
野スミレなれども凛凛と咲くなり
西野津 古崎スエノ
- 年明けて変わりいく時代の新年に
皆世の平和願ふなり
西野津 古崎 栄子
- 寒さにも負けぬや燕勢揃い
囀り唄う正月の朝
吉本 高橋 澄子

俳句

- 庭の木へ寒肥十袋撒きちらす
西上宮 村内 一誠
- 人參のからくれなるの命かな
北野津 井田 道寛
- 帰省客田舎料理で持て成して
西野津 古崎スエノ
- 水仙の水仙に振れる冬の風
西野津 古崎 栄子
- 忘れ得ぬ 初任の子等ゆ 賀状来る
吉本 高橋 澄子

八火図書館 だより

2月4日は「立春」です。暦の上では冬が終わり、春に向かって季節は移っていきます。ただ、「三寒四温」といわれるように、寒さはもう少し続きます。図書館には、心が暖かくなる、体を動かしたくなる本がたくさんあります。暖かい春を楽しみに、この時期も読書に親しみましょう。

お知らせ

毎年2月に実施しております八火図書館本まつりは中止します。なお、読書感想文集は今年も発行予定です。

館内紹介

カウンター
の向かいに、
児童書や絵
本の新着コー
ナーを設けま
した。



新着図書おすすめの一冊

方言ずかん ほるぷ出版

「方言」と聞いてどんな言葉か思い浮かべますか。普段何気なく話している言葉が、実は方言なのかもしれません。
この本では、全国で使われている方言を紹介しています。



八火図書館 ☎62-3489

「雪国」VS「山の音」どっちが

法道寺 本田 花風

葉子が帰った後、座敷が終わった駒子は再び島村の旅館に戻り、酒を飲む。島村が「いい女だ」と言うと、その言葉を誤解し怒った駒子は、激しく泣いた。東京の妻子を忘れたように、その冬も温泉場に逗留を続けた。天の河のよく見える夜、映画の上映会場になっていた蘭倉(兼芝居小屋)が火事になり、島村と駒子は駆けつけた。

人垣が見守る中、一人の女が蘭倉の二階から落ちた。落ちた女が葉子だと判った瞬間にはもう、地上でかすかに痙攣し動かなくなった。駒子は駆け寄り葉子を抱きしめた。駒子は自分の犠牲が刑罰かを抱いているように、島村には見えた。駒子は「この子、気がちがうわ、気がちがうわ」と叫んだ。さういふ声ももの狂はしい駒子に島村は近づかずとして、葉子を駒子から抱き取らうとする男たちに押されてよろめいた。踏みこたへて目を上げた途端、さあ音を立てて天の河が島村のなかへ流れ落ちるやうであった。

「雪国」は十二年間に発表した十編の作品(夕景色の鏡「徒勞」「雪中火車」「続雪国」など)から最終的な完成作となつてゐる。完結本「雪国」は「あとがき」を付して十二年が費やされた。

川端康成はノーベル賞を手にするが、最初に候補になつてから毎年候補者になつてゐたことが、情報開示で明らかになつてゐる。それは七年後のことである。川端は報道陣のインタビューに、「運がよかつた」とし「三島由紀夫君が若すぎる」ということのおかげです」と謙遜している。三島との関係は「往復書簡」で紹介しているが、三島からすれば、川端の存在は師と仰ぐような関係であつたが、川端にとつても三島の存在は大きかつたのであつた。

投稿先 〒869-4814 氷川町島地642番地
企画財政課 企画係 ☎52-5850

投稿について

- ・誤字防止のため楷書で記入し、漢字には全て読みがなをふって投稿してください。
- ・電話番号を記載してください。
- ・毎月5日必着